

平成 27 年度 第 2 回 河南町総合戦略推進会議 議事録

日 時：平成 27 年 9 月 24 日（木）午後 3 時～5 時

場 所：河南町役場 4 階 大会議室

出席者：委員 19 名／欠席委員 3 名

事務局 4 名

傍聴者 2 名

1. 開会

2. 第 1 回推進会議議事録確認

(柿沼会長)

- ・事前に、郵送されている議事録について、訂正等のご意見があればお願いしたい。

(全員)

- ・異議なし。

(柿沼会長)

- ・無いようなら、町ホームページで公開したい。

3. 案件

(1) 河南町人口ビジョン（骨子案）について

(2) 河南町総合戦略（骨子案）について

(柿沼会長)

- ・説明の都合上、上記の(1)(2)の二つあわせて、担当者の方からご説明させていただきたい。

(事務局による資料説明)

- ・河南町人口ビジョン（骨子案）にもとづき、その構成と、河南町人口ビジョンの位置づけ・対象期間と国の長期ビジョンの整理、河南町の人口動向分析と将来人口の推計、及び地域に与える影響、河南町の人口の将来展望における取組の方向性について説明。
- ・河南町総合戦略（骨子案）について、策定の背景と基本方針、将来像と施策の方向性について示すとともに、施策体系について説明。

(柿沼会長)

- ・ご説明、ありがとうございます。内容が豊富で、消化不良のところもあるが、委員の皆さまからの質問があればお伺いしたいと思いますが、まず案件(1)河南町人口ビジョン（骨子案）について、ご意見があればお願いしたい。

(委員)

- ・河南町からかなりの人が町外へ出ていき、空き家状態のところも多い。アンケート等で、町外へ出て行かれた人にその理由について聞かれたことはあるか。

(事務局)

- ・この4月から窓口でアンケートを取りはじめたところ。仕事の都合や結婚を機に出て行くという理由が多い。

(委員)

- ・TBSで「人生の楽園」という番組があり、取り上げられた自治体について、インターネットで調べると、転入をされやすい条件づくりがされているが、河南町ではまだそういった取り組みはない。転入されやすいように、迎えられやすい地域の環境づくりが必要である。転入してくると珍しがられるような状況で、もてなす、暖かく迎えるといったものが河南町にはないように思う。

(事務局)

- ・転入転出について補足したいが、転入出で人口が大きく減っているわけではない。トータルでは20人程度の社会減でしかなく、現在のところ、死亡による自然減が人口減少の主な要因となっている。
- ・8月は久しぶりに人口が増加した。

(委員)

- ・河南町に住んで良かったと思われるためには、迎えやすいような環境づくり、住み続けてもらえるような環境整備が必要だと思う。

(事務局)

- ・地域ぐるみで、暖かく迎えられるように、地域のコミュニティ活動について「笑顔いきいき」のところで盛り込んでいくことが必要だと思う。
- ・総合戦略の中で、そういう視点でのまちづくりを目指していく。町外の人に施策について知ってもらわなければならないことから、PRについても取り組んでいきたい。

(委員)

- ・コミュニティが一番大事だと思う。コミュニティにうまく溶け込んだ人は永住したいと考える人が多い。

(柿沼会長)

- ・転入・転出の問題とも絡む話であるが、今年は国勢調査の年で、速報値も出てきて正確な数字もつかめると思う。

(委員)

- ・人口ビジョンの「2. 河南町の人口動向分析」で、2060年までの将来推計人口の値が出ている。町として、将来的にその推計のように推移するという考えに基づいて人口ビジョンを策定するのか、これに歯止めをかけ、横ばいになるように、積極的なビジョンの策定をするのか。そのいずれかによって、実現性が変わってくる。推計で示されているのは現状より、いい目を見た人口減少の度合いではないかと思う。本町にあった人口規模で住みやすいまちづくりを目指すのかどうか、骨子の一番大事なところではないか。

(柿沼会長)

- ・人口将来展望があり、例えば、町としては積極的な人口の維持・増加に向けて舵をきり、それに基づいた総合戦略に取り組むということであれば、見えやすい。今回、検討中のところが煮詰まっていくことを期待したい。

(事務局)

- ・「2. 河南町の人口動向分析」の2060年までの推計値は、あくまでも社会保障・人口問題研究所が推計した値であり、今後、河南町をこういう町にするということを盛り込んでいきたい。

(委員)

- ・いま、私の子どもたちが共働きのフルタイムで働いており、保育料金や、病後児保育などでは割増料金もかかるようだ。どのように生活していくかの基盤であるお金の問題について、保育料は世帯収入によって決まっており、河南町の上限が低ければ、移転も考えると言っている。
- ・「経済的に大変で働かないといけない」、「働きたい」という思いを持っている若い世代の声を汲みとっていくこと、今、保育園に預けている若い親、小学生の親、中学・高校生の親の考え方を知っていくと、方策も見えてくるのではないか。

(柿沼会長)

- ・戦略に関わるご意見でもあるので、総合戦略もあわせて議論をしていきたい。

(事務局)

- ・先ほど説明したように、出生数が極端に下がっている状況にあり、高齢者が増え亡くなる方も多いため、毎年100人程度人口が減少している。子どもが少ないのは、いろいろな条件があり、働く場の給料のベースアップなどについては、社会構造の中の一部を行政が担うものと考えている。それ以外のどうすれば住みやすくなるかということを中心に考えていきたい。施設整備でいうと、保育や教育の環境面での充実や環境づくりのお手伝いをしていくことが行政の役割かと考えている。

(委員)

- ・町内に、家を建てる際、市街化調整区域の指定により家を建てにくい現状にある。田んぼをや

りながら隠居するとき、長男のために一軒は建てられるが、他の子ども達のために田んぼを使って二軒、三軒と家は建てられないように調整されている。まず、町内に留まってもらうことが必要だと思う。

(柿沼会長)

- ・総合戦略と連動するところは庁内で調整されていると思うが、都計審での議論や農地法などの絡みなどもあり、個別にこの委員会の中で議論するのは難しいのではないかと。

(事務局)

- ・現在の法律に基づく規制では、市街化区域は町域面積の1割程度で、市街化調整区域がほとんどを占め、法規制があるのは事実。今から45年先の2060年のまちのイメージを描こうとしている中で、規制がいつどうなるかの議論はこの場では行いにくいと考えている。二世帯・三世帯住宅というのも一つの方法であり、どういう工夫ができるかだと思う。

(柿沼会長)

- ・河南町では阪南ネオポリスなど過去の大きな開発行為の時、開発事業者が町に対して申請を起こして変更してきたのが大部分。総合戦略の中では、おそらく長期的な調整事項と考えられる。

(委員)

- ・現在、子育て中であるが、河南町の状況に危機感を感じて、参加させていただいた。将来の方向について、人口を増やしていくのか、人口の中身として自然増を増やし人口構造を整えていくのか。それを決めないと前に進めないと思う。
- ・子どもの頃から河南町に暮らしているが、最近特に治安が悪くなったように感じている。子どもだけで外で遊ばせられず、家の中で、行き帰りも親が付き添い、携帯のGPSで位置を把握している。

(柿沼会長)

- ・治安の問題は、河南町だけのことか、社会全体のことかもしれないが、お住まいの方が体感的に治安が悪くなったと感じられているのであれば、そうかもしれない。なぜそうしたことが起きているか、地域、学校でどう対応するか、総合戦略の中で考えていかれると思う。
- ・戦略部隊の中には、子育て中の方もいて、いろいろな意見を汲み上げられて、まとめられているものと思う。

(委員)

- ・こういう場で声をあげないと変わっていかないと、申し上げた。
- ・骨子案を見ていると、河南町愛にあふれている方がたくさんおられるように感じた。

(委員)

- ・私は河南町に転入してきたが、理由は、子どもがアトピー性皮膚炎で喘息の心配があり空気の良いところに引っ越そうと考えた。河南町を選んだのは、こちらに知り合いがいたことが大きかった。さくら坂の住人に、遊びにおいでと呼ばれたことがきっかけで、こういう町があることを知った。大阪市内に住んでいると、なかなか来ることがないので、もっと人を呼び集められるようなまちにしていってほしい。住人がいい町だと思わないと、外の人は来ないと思う。
- ・河南町の中で雇用を創出すると言うよりは、河南町に住んでいても、働きに出やすくて帰ってこられるという環境にしてほしい。大型の商業施設などが立地すると、逆に治安が不安になってしまうという心配がでてきてしまう。

(柿沼会長)

- ・情報過多の時代で、本当に欲しい情報になかなか辿り着かない状況にある。どうマッチングするかが重要で、いいアイデアを出してもらえればよい。お見合いではないが、バスで大阪市内の方を呼んだバーベキューを開催するなど、いろいろな方法もある。そうしたニーズもあるだろう。

(委員)

- ・かつて仕事である自治体において、企業誘致プロジェクトのマネージャーを務めていた。以前に、町の企業誘致の実績を尋ねたこともあるがはっきりとしなかった。雇用や地産地消の問題もあり、現状どういう企業が立地し、雇用にどのような効果をあげているのか。あるいは、将来ここに物流の企業立地等の必然性・可能性について分析はされているのか。まちづくりの将来像を考える上で、中心的な産業などの産業構造の分析等もしたうえで、総合戦略を考慮して行ってほしい。

(事務局)

- ・具体的に雇用がどれくらいかは、国のビッグデータでは示されているが、河南町のボリュームは小さい。その点も踏まえて検討していきたい。

(委員)

- ・骨子の資料中に、二次産業についての配慮が全くない。大型商業施設等の三次産業は雇用の吸収力は小さい。二次産業が来れば、雇用が増え、若者が集まり、子どもが増える。町の総合計画の審議の際にも話をしたが、町として手を打たれていない。
- ・河南町で一番大事なものは、農業だが、その対策について触れられていない。Uターン、Iターンの若者がいるが、彼らがどう定着するかを考えている。耕作権(小作権)を得るために1,005平方メートルの申請では農業委員会では面積が足らずに認められず、1,055平方メートルは認められた。我々にとってはどちらも一反であり、数十平方メートルの差で異なるのは、堅苦しすぎないかと思う。受入のためには柔軟性も出していかなくてはならないと感じている。Uターン・Iターン者を本当に育てようとするならば、ルールと実態との間のすり合わせをうまくやらないと、帰ってくる

人が逃げてしまう。

- ・二次産業対策、一次産業（農業）対策について、明確にしていきたい。

（事務局）

- ・農業対策については、総合戦略のアイデアの中には出ているが、作りこみが不十分で、とりまじめにあたって考慮していきたい。法律の壁はあるので、その点は国へ働きかけていくことも必要だと考えている。

（委員）

- ・ルールも必要だが、先ほどの話のように次男、三男のための家が建てられないという話のように、多少柔軟性を持って対応してもらわないと、人口増加にはつながらない。早く取り組まないと、他所に先を越されてしまう。

（委員）

- ・全町民が総合戦略をつくったと感じられるように、役場からの途中の経過等も踏まえた情報の発信、広報を全町民にできるようにしてほしい。各分野で考えておられる方もいると思うので、その意見を汲み上げながら、プロジェクトチームにおいて検討してほしい。プロジェクトチームの中だけで考えるのではなく、推進会議のそれぞれの産官学の専門家の意見をヒアリングしながら、動向や知識、実現の可能性等を選別して、施策として立案していただければ、町全体で広がっていくのではないかな。町全体を盛り上げていくような広報をしてほしい。

（柿沼会長）

- ・町広報紙では、議論の過程も載せられるのか、結果だけが載るのか。

（事務局）

- ・広報紙ではタイムラグが生じる。
- ・委員から広くご意見をお伺いするという主旨で、この委員会は成り立っている。議論いただいた内容については、議事録を町ホームページに掲載しながら、議論の内容についてお知らせしていきたい。
- ・また、ある程度まとまった段階で、住民からのパブリックコメントなどで、ご意見を求めていきたいと考えている。

（委員）

- ・できるだけ検討の段階から、町民が参画できるようなことがあれば、最終まとまった段階で、町会に説明していく際にも効果的なのではないか。ただ説明を聞くのと、少しでも策定に参画したのとでは、親密感が異なる。

(委員)

- ・町では、町民がホームページに目を通しての率をどの程度と想定しているのか。
- ・よくホームページで発信すると言われるが、パソコンさえない家庭もあり、その人達にどう PR し伝えていくのか。ホームページだけでは、ごく一部にしか浸透しない。パソコンさえ持っていない方々が一番知りたいところであり、PR の仕方を再検討していくべきだ。

(事務局)

- ・ホームページの閲覧回数などは統計もとっておらず、どれだけパソコンが普及しているかの問題もあると思う。パソコンだけでなくスマートフォンなどでも閲覧できるようにしている。
- ・もう少し議論がまとまれば、広報紙に載せることも検討していきたい。

(委員)

- ・総合戦略について、町職員の若手が知恵を出している。5年間を想定した戦略だが、5年でできるものと、高規格道路の整備など50年先でも怪しいものなどが混ざっている。今すぐできること、5年でできること、今すぐやらなければ手遅れになりそうなことなど、選別を次に向けてさせていきたい。
- ・線引きも小さな都市計画の変更であれば、町の権限でできることもある。すぐにやらないといけないことを決めていくことが戦略の肝(きも)だと思っている。それが人口ビジョンにもつながっていく。

(柿沼会長)

- ・情報を差別化し、それを欲する人のところへ届けるマッチングが重要になる。隣の太子町とどう違うのか、富田林や羽曳野がどういう戦略でやってくるか、わからない。インターネットをできない高齢者などいかに知らしめていくか、考えていかないといけない。

(委員)

- ・人口動向分析に関して、生産年齢人口のうち若年の子育て層、中高年層の比率によっては、うつべきアクションも変わってくる。年齢層別の人口データ等についても教えてほしい。

(事務局)

- ・5歳階級別のデータはあるので、必要であればお示しできる。

(委員)

- ・地区別の人口データはあるのか。そういうのが出れば、議論もしやすい。

(事務局)

- ・現状での地区別の人口データは持っているが、それを細かく分析し、地区別の人口推計や地区別の戦略につなげていくことは考えていない。人口推計や戦略は、町全体で考えていきたい。

#### 4. その他

(柿沼会長)

- ・資料4にあるように、2月までに4回を考えている。次回は、人口ビジョンと戦略の素案について議論したい。11月9日(月)か12日(木)の15時から開催したいが、ご都合はどうか。

(それぞれに挙手)

第3回、11月12日(木)15時から 本庁舎4階の会議室で開催したい。

#### 5. 閉会

以上